



入御祭於中津宮



平成ノ大造営ノ時満ちて道ひらく

御嶽神社 仮殿遷座祭

沖ノ島を遙かに拜する好天のなか

厳肅裡に齋行

中津宮の摂社である御嶽神社は、大島の最高峰・御嶽山々頂に鎮座し、湍津姫神の荒魂、天照大神の二柱をお祀りしている。本殿は前回の修復から長い年月が経過し、各所に腐朽が見受けられるようになった為、「平成ノ大造営」事業の一環としてこの度修復を行うこととなった。

祭典当日の七月三日、晴天に恵まれ御嶽山上からは遠く沖ノ島を拝することも出来た。午後七時より御嶽神社本殿にて権宮司以下神



御嶽神社を出御



平成ノ大造営

時満ちて道ひらく

余滴

本年八月十一日「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する。」として「山の日に」が国民の祝日に加わった。近年頻発する自然災害の中で、改めて山に対する畏怖と感謝を意識する事は必要と感じる。神道においても山に対する信仰は多様な形態がある、古来山岳は神靈の住まう世界として崇められ山麓で祭祀が行われ、その御霊は農耕を守る水分神、あるいは祖霊と考えられ信仰の対象とされてきた。八月一日、当社中津宮の荒魂・祖神天照大神を祀る摂社御嶽神社の遷座祭が斎行された。大島の氏子はその大半が漁業従事者であり、海への信仰が目立つが、御嶽神社は大島の最高峰御嶽山(二四メートル)に鎮座し、古くから農業に関連した信仰を受け、中津宮の嶽神山神として存在し、湍津姫神の和魂・荒魂は夫々に大島の海・山の大自然を主領く働きを担った。数年前には御嶽山遺跡から沖ノ島の古代祭祀遺跡と同様の神宝が大量に出土し、沖ノ島祭祀遺跡との密接な関連が判明した事からも、特別に神聖視されていた山であったことが伺える。山は直接の信仰対象であると共に、水害等の災害から集落を守り、更に生活に豊かな水の恩恵をもたらしてくれる。大自然の神のお力は時に我々人間に試練を与えられるが、その豊かな恵は計り知れない。海山の二天自然が対立すると、一方が大洪水で戒める「海幸彦・山幸彦」の神話にも見られるが、自然全てに等しく祈りを捧げ日々の平穩に感謝したい。(長)



御嶽神社本殿 後ろから



中津宮へ向かう



御嶽神社本殿 横から



出御

職七名奉仕の下、仮殿遷座祭が斎行され、御祭神におかれては、同八時、中津宮本殿へ入御された。修復は七月中には終了し、八月一日に本殿遷座祭が斎行される。

中津宮 祇園祭

七月十五日午後二時より祇園祭が斎行された。そしてこの神賑行事として大島地区山笠保存会役員を始め中津宮の氏子総出で山笠が奉納された。

当日は好天の夏空となり、祭典が近づくと法被姿の島民が続々と須賀神社に参集し、汗ばむ暑さの中斎行され、大島地区山笠保存会会長(宮本俊久氏)以下関係者が玉串を捧げ祭典は滞り無く納められた。

祭典後には大島小学校児童により「大島心響太鼓」が奉納されると、それを合図に島の子供から大人まで島をあげて山笠が引かれ、大小五台の山笠が勇壮に島内を疾走した。沿道では各家々から力水を掛けられ、更に勢いを得て勇み進み、子供たちも大声で掛け声をかけながら駆け回った。



恒例の行程を巡行し終えた山笠は午後四時頃には子供広場に納められると、祝い唄を一同で歌い上げ、終始賑やかに熱気を帯びたまま本年の大島祇園山笠は終了した。



子供広場に納められると、祝い唄を一同で歌い上げ、終始賑やかに熱気を帯びたまま本年の大島祇園山笠は終了した。

巫女神楽舞温習

三日間に亘り磯部恵子先生よりご指導頂く

七月七日〜九日迄の三日間、神社音楽協会より磯部恵子先生をお迎えし神楽舞のご指導を頂いた。

現在巫女職は十四名奉務しており、通例神社の社務が落ち着くこの時期に神楽舞の講習会を行い研鑽に努めている。

期間中は社頭状況を見ながら交代で参加し、夜七時過ぎまで温習を行い巫女たちは正しい舞を見に付けようと懸命に取り組んでいた。

磯部先生からは「神楽舞は神様に奉納する舞であり、神様に心を通わせる必要がある。その為には、指先から足先まで神経を集中させて気持ちを含めながら舞わなくてはならない」と神楽舞

に対する基本的な姿勢からご指導いただき、巫女達

もそれに応えるように真剣な表情で受講した。

本年も恒例祭で奉奏する「浦安の舞」に加え、秋季大祭最後の高宮神奈備祭にて奉奏する「悠久舞」をご指導頂き、最終日には本殿にて奉奏し温習を締めくくった。

磯部先生は神社音楽協会講師として、住吉神社



悠久の舞奉奏於本殿



浦安の舞奉奏於本殿

(福岡)等で神楽舞のご指導をされながら、神職として櫻川磯部稲村神社(茨城県櫻川市)で御奉仕されている。来年の講習会では更に成長した姿をご覧頂くため、今後も温習を重ね更なる研鑽に励みたい。

宗像市海開き

六月二十八日、宗像観光協会・玄海ホテル旅館組合・神湊飲食店組合主催の海開き神事が行われ、

と多くの家族連れが訪れ大いに賑う。ルールとマナーを守って楽しい夏の思い出を作って頂きたい。

当大社神職が宗像市神湊海岸の砂浜に出向し、今シーズンの海と人の安全、宗像地域の活性化を祈念した。祭典終了後には、

深浜海岸、江口浜、勝浦海岸を其々祓い清めた。

玄海国定公園に属する景観地である宗像の海水浴場には、夏休みに入る



練習風景

全国氏子青年協議会長崎大会 当社氏子青年会より十一名出席

七月九日(土)午後一時
四十五分、全国氏子青年
協議会の第五十四回定期
大会が長崎県長崎市にて
開催された。本社本庁田
中恆清総長他のご臨席を
仰ぎ、全国七十六単位会
より約五百人が参加、当
大社より氏子青年会田村
報告、組織活動の強化を
目的とした
財政基盤の
確立などを
盛り込んだ
平成二十八
年度事業計
画が報告さ
れた。午後
四時、櫻井
よしこ講師
による「私
たちが目指
す国のかた
ち」を演題
に記念公演

政則会長をはじめ十名が
出席した。
式中では、第十九期指
定氏子青年会の交付にお
いて、安井貴之理事が壇
上上がり指定証をうけ
た。その後、総会にて承
認された、昨年度の事業
報告、組織活動の強化を
目的とした



財政基盤の
確立などを
盛り込んだ
平成二十八
年度事業計
画が報告さ
れた。午後
四時、櫻井
よしこ講師
による「私
たちが目指
す国のかた
ち」を演題
に記念公演



会が行われた。そして、
一同聖寿万歳を行い、大
会は盛大裡に終了した。
翌十日、当大社氏子青
年会員は長崎市内を観光
し帰路に着いた。
今回、全国氏子青年協
議会の指定交付をうけ、
活動の幅を広げ、一層の
神明奉仕と全国氏子青年
との交流を深め、本会発
展の為微力ながら力を尽
くす所存にて当会会員一
同決意を新たにしました。

第1回

氏子評議員会

六月二十二日、本年度
一回目の氏子評議員会が
置帖会長以下六十九名出
席のもと当大社清明殿に
て開催された。議事では
七月三十一日の大祓式並
夏越祭について事務局よ
り説明があり
旧宗像郡内に
配布する人形・
献米袋の取り
纏めのご理解
ご協力の依頼
がなされた。
また、氏子
会研修旅行の
件についても
審議、報告が
なされた。
会議終了
後、各評議員
に担当地区の
人形・献米袋
をお持ち帰り頂
き、大祓式並夏越祭へ向
け、配布・取り纏めに御
尽力頂いた。

人形配布作業等にお力
添えを頂いた皆様方には
紙面を以って御礼のご挨拶
を申し上げます。

また、氏子
会研修旅行の
件についても
審議、報告が
なされた。
会議終了
後、各評議員
に担当地区の
人形・献米袋
をお持ち帰り頂



当社神田にて神宮献供米御田植え祭齋行 福岡県氏子青年協議会会員五十名参列

去る六月十九日、宗像大社の神田にて、福岡県氏子青年協議会神宮新穀献供米御田植え神事が齋行された。

この事業は全国氏子青年協議会において、神社のお祭りが農耕儀礼を中心に行われており、穀物が私達の生命の糧となる

主なるものである事から、同協議会にて稲作に取組み、収穫した米を伊勢の神宮に奉納し、我が国の伝統文化についての理解を深めると共に、さらなる神宮・神社への崇敬の念を醸成する事を目的としている。

当日、神田脇に祭壇が

生まれ、福岡県氏子青年協議会田中茂廣会長(柳

川・日吉神社)以下子供を含む約五十名参列の



神田



と、十一時御田植祭が齋行された。祭典後、参加者全員で神田に進み田植えを開始、約一時間で予定の早苗を全て植え終え、今年の御田植え神事も滞り無く終了した。

RKB毎日放送創立65周年記念

宗像・沖ノ島 大国宝展

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群
世界遺産登録推薦決定記念事業

2016年
9月17日[土]-11月28日[月]

開館時間 9:00~17:00(入場は16:30まで)

*ただし9月17日(土)は開会式のため、
一般入場は午前11時30分より

閉館のお知らせ

- ◆8月1日(月)~9月11日(日)
展示替え作業の為一部閉館
- ◆9月12日(月)~9月16日(金)
完全閉館



”神宿る島”沖ノ島から出土した
初公開を含む国宝の数々、一挙公開

第40回

総勢五〇〇名が熱戦繰り広げる
小倉百人一首かるた大会開催

六月十八・十九・二十の三日間、第四十回宗像大社小倉百人一首かるた大会(主催 宗像大社、一般社団法人全日本かるた協会)が開催され、約五〇〇人にもものぼる参加者が当社に集い、朝夕刻まで熱戦が繰り広げられた。

大会は、一日目にD級、二日目にC・E・シニア級、三日目にA・B級と階級ごとに日を分けて開催され、参加した五〇〇名の選手は、大神様に見守られながら御神前で日々の練習の成果を存分に発揮した。特にA・B級ではレベルの高い攻防が続き、勝

ち負けだけでなく礼儀作法においても、上級者にふさわしい試合が行われた。
今大会も昨年と同様に参加者多数の為、会場は大変混雑したが、大会関係者、選手の協力により三日間とも滞ることなく終了することができた。閉会式後には、選手らは互いに健闘を称えあい、大社を後にした。



選手宣誓

第40回 全国かるた競技宗像大会成績表

A級56名	優勝	鶴田 紗恵	(九州かるた協会)
B級85名	優勝	野口 菜々	(熊本県かるた協会)
	優勝	三苫 知紘	(大分県かるた協会)
C級113名	優勝	辻 優美花	(九州かるた協会)
		升永 有香	(九州かるた協会)
D級105名	優勝	高島 冴月	(佐賀かるた会・佐賀県)
		片山 飛鳥	(長崎海星高校・長崎県)
		佐伯 実杜	(佐賀かるた会・佐賀県)
		福島 幸奈	(行橋かるた会・福岡県)
		松本 好海	(五島高校・長崎県)
中学生以上98名	優勝	松野 ゆい	(海星中学校・長崎)
		松山 一花	(須恵茜会・福岡)
		小川 優吾	(宇美かるた会・福岡)
		大江 海咲	(はかたもみぢ会・福岡)
小学生52名	優勝	宮副叶和子	(はかたもみぢ会・福岡)
		小谷 加恋	(須恵茜会・福岡)



岩出市	熊本市	久留米市	湖南市	たつの市	奈良市	福岡市	岡崎市	岡崎市	岡崎市	三浦市	尼崎市	久留米市	二、〇〇〇円	宗像市	三、〇〇〇円	宗像市	四、〇〇〇円	横浜市	五、〇〇〇円	茨木市	六、〇〇〇円	国立市	福岡市	宗像市	一〇、〇〇〇円
黒山	大橋	田中	岡本	松田	岡野	柴田	鈴木	鈴木	鈴木	飯田	上西	國分	大谷	吉田	大橋	占部	矢尾	岩見	百岳	矢尾	岩見	百岳	岩見	貴史	
哲彌	工	浩規	明一	崇	實	勝久	かる	誠次	茂生	一生	光洋	保夫	絵理	一直	昭彦	博	寛明	洋祐	寛明	寛明	洋祐	洋祐	洋祐	洋祐	

御造営奉賛者御芳名

(平成二十八年六月)
(順不同・敬称略)

神道青年全国協議会 神武天皇二千六百年記念事業 国家安寧祈願祭齋行

今年は榎原の地において我が国の柱、基礎を建てられた第一代神武天皇が崩御されてより二千六百年の節目に当たる。神武天皇の御聖徳を偲ぶと共に御業績を顕彰し、次代の安寧を願う、この

趣旨にて去る六月八日、榎原神宮の特別協力のもと神道青年全国協議会(以下、神青協)神武天皇二千六百年記念事業 国家安寧祈願祭が同宮において齋行された。同祈願祭は二十六年前に皇紀



奉仕員正式参拝於榎原宮

二千六百年を奉祝し齋行されており、現青年神職も中今としてその思いを受継ぎ同じ気持ちで祈りを捧げた。前日七日は生憎の雨天の中、神道青年会各都道府県単位会の会長を始め百名を超える青年神職が全国より榎原神宮に参集、当社よりも神職一名が出向奉仕した。

一同にて神武天皇歎傍山東北陵を参拝し、榎原神宮を正式参拝させて頂いた。その後、奉仕者一同は白衣・白袴に更衣し祭典奉仕説明会を受け、本殿に於いての習礼に望んだ。百名を超える祭典奉仕は一人ひとりの所役は少ないものの、一挙一動を揃え百の心を一つに祈る事が今回の祈願祭の目的でもある為、予定時間を越えての徹底した習礼となった。

当日は懸念された雨も上がり晴れ間も見える天候の中、午前十時十五分齋館前に齋主・榎原神宮 久保田宮司以下祭員、神青協役員四名総勢一〇七名が列立、本殿へと参進した。奈良県神社庁森庁

長、神青協四名の顧問の御参列のもと国家安寧祈願祭が齋行された。宮司一拝、御扉開扉に続き献饌では幣殿から外拝殿への回廊に左右側のそれぞれ約五十名の手長が奉仕し二柱の御祭神に神饌が供され、久保田宮司が祝詞を奏された後、次いで神青協よりの幣帛並びに全国四十七都道府県からの献酒の目録が神前に奉られ、神青協長友会長が祭詞を奏上、榎原神宮巫女による扇舞の奉奏、祭員参列者一同にて国歌並び紀元奉頌の歌が奉唱された。次に玉串拝礼、撤饌、閉扉が行われ、宮司一拝にて凡そ二時間の祭典は終了した。

祭典後は榎原神宮の御厚意により同宮養正殿に於いて直会が執り行われると、一同は緊張感も和みこの祭典に奉仕した感動と新たな使命感を旨にそれぞれのお社への帰路に着いた。



本殿へ参進



習礼

第六六〇回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



宗像市 日の里 石松 弘次

ふうりんや努力一筋の札さげて夕風吹けばりんと鳴る
努力一すじ、と頑張っているような風鈴が面白い。擬音語もあり
ふれているようだが、この歌では「勇気凛々」の感じで、効いている。

北九州市 八幡西区 豊田 光子

白桃の甘きいたみを思慕となし生への執着一日一日が
誰かへの思慕を生きがいにする作者が魅力的。へ白桃の甘き痛
みをもつ思慕にひと日ひと日を惜しみて生きる」としてみた。

宗像市 多禮 早川 祥三

震度3体験しつつ読経なる十三回忌の香もかすかに
状況がよくわからないが、法事の最中の地震と読んだ。
三句へ読経聞く、結句へ香煙の中」としては。

福津市 若木台 山崎 公俊

風さやさや楠の並木がみどり葉の歌ふをとなりへとなりへ渡す
葉のさやぐ楠の並木が連動しているように見えるの
だ。メルヘンのような作者の世界。

宗像市 宮田 山本 静子

歩行器であゆみいる吾おとなりの梅採る方とはじめて会釈す
歩行器で近づく隣人と会釈を交わす作者。親しくなっ
たと思わせる温かみが歌にある。

北九州市 門司区 北野カズミ

大玉のブルーあぢさる雨をあびゆる重さやなべてうなだる
とても目の良い作者だ。三・四句をへ降る雨に重くな
れるや」としてはいいが。

宗像市 池田 森 龍子

手作りを譲らぬ吾が一品の冷凍食に箸の止まりぬ
手作りの食事に誇りを持つ作者だろう。箸が止まっ
たのは外食中か、場所が出ると良い。

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦

水走る水路のそばに洗車せりころゆくまでバケツを使ひて
思うさま水を使い洗車する気持ちよさがよく出てい
る。結句へバケツで汲みてに。

宮若市 宮田 本田エリナ

水面にもホトトギスの声鳴りひびき川魚たちに初夏告げる
季節感があり発想が魅力的。三句は鳥の声には少し強
いのでへひびき来てくらいに。

宮若市 水原 吉崎美沙子

じゃが芋を掘りしばかりの荒土に雀砂浴ぶ頭地につけ
雀の描写が丁寧で、リズムも良い歌。四句の雀は漢字
が続くので表記をへすずめに。

宗像市 日の里 秋吉 嘉範

紅袴巫女たち踊る筑紫舞動き優雅で拍手起れり
舞に魅了された作者。初句はへ紅袴の、二句へ巫女た
ちの舞う、四句はへ優雅な振りに」としたい。

宗像市 日の里 大和美由紀

庭に咲くピンク色した紫陽花は日に日に変はり青くなりたる
毎日色の変わる紫陽花に注目している作者。二句へ薄
紅色の四句へ日ごと色変へに

◆選者詠

ふるさとの小倉に米軍基地ありき

朝鮮戦争ありしそのころ

基地ちかき城野の鉄道線路沿ひ

カンナ咲きぬき燃ゆる朱赤に

第六三三回

俳句作品集

宗像市 多禮 早川 祥三

祖母の手の餅はがめの葉舌ではぐ

8月 祭事曆

1・15日 月次祭

午前10時～ 高宮祭 第二宮・第三宮祭

宗像護国神社祭(1日)

午前11時～ 総社祭

浦安舞奉奏(1日) 豊栄舞奉奏(15日)

1日 御嶽神社遷座祭

7日 午後8時～

中津宮七夕祭 於=大島・中津宮

15日 午後7時～

宗像護国神社戦没者慰霊祭

於=宗像護国神社

編集後記

先日、三泊 四日で開催

されました神職の研修を受講して
まいりました。神社界では様々な
研修が開催されており、それぞれ
研鑽を高めている次第でございます。
今回の参加者は私のように、
奉職して年数の浅い神職が対象で
した▼神職として奉仕するところ
構えや、集団生活など研修を通し
て様々なことを考えました。また
奉職してこれまでの自分を省みる
時間にもなりました▼「初心忘れ
るべからず」この言葉を忘れずに
これから、日々の奉仕に励んでま
いりたいと思います▼梅雨が明け
まして、暑い日が続いております。
お体にはご自愛ください。(黒)

発行所

宗像大社社務所・宗像会

住所 所千八一一三五〇五

福岡県宗像市田島三三三二

電話 (〇九四〇)六二二二二二(代)

発行人 葦津幹之

編集人 大塚・鈴木・黒神

制作・印刷 ゼネラルアサヒ